

優秀賞

障害者と健常者のちがひ

枚方市立津田中学校 二年 東 美幸

私のお父さんは車イスに乗っています。

子供のときに受けた予防接種の副作用で、足が不自由になったそうです。今は慣れたけど、お父さんと出かけるのと周りの人の視線が気になるときもありました。私が小学生のころお母さんに、

「どうして車イスの人と結婚したの？」

と聞いたことがあります。お母さんは、

「障害者と健常者にちがひなんてないのよ。」と言いました。私はぜんぜんちがうのになと思って、お母さんの言っている意味が分かりませんでした。

私のお父さんが働いている会社には50人の社員さんがいて、その内約40人が車イスに乗っています。会社では毎年運動会があって、私も弟や妹と一緒に参加しています。社員さん達と玉入れやパン食い競争をしてとても楽しいです。社員さん達も顔を覚えてくれていろいろなお話をするようになりました。お仕事の話や学校の事など楽しい話もしたけど、みなさんの過去や障害の事も聞きました。生まれつき障害がある人や病気で障害になった人、交通事故やスポーツ中の事故で障害者になった人もいました。私はその話を聞いてとっても怖くなりました。自分自身や家族や友達もある日とつぜん事故や病気で、障害者になってしまうかもしれないと思っただけです。もし私が明日から歩けなくなったら、どうするのか？私だったら毎日泣いてしまうかもしれないですね。かわいいう洋服が着れない、海や山に遊びに行けない、結婚できないかもしれないとできない事をばかりを考えて落ち込んでしまうかもしれません。そんなつらい現実を受け入れて、毎日働いている障害者のみなさんは強いなと思いました。

私は障害者の人は助けなければいけないと思っていたけど、無理にがんばらなくてもいいんだと、みなさんの話を聞いてそう思いました。目が悪いから眼鏡をかける・高い所に手が届かないからはしごを使う・足が悪いから車イスに乗る、何も特別な事では無いんだと思いました。今ならお母さんが言っていた「障害者と健常者にちがいはない。」

の意味が少しだけ分かった気がします。明日がどうなるのか、誰も分からない。障害者だからとか、健常者だからとか区別や差別をしない、みんないっしょだよだど：

でも、今の世の中はまだまだ区別や差別だらけだと思えます。見た目がちがうだけで、いじめられたり、みんなと同じ事ができないと笑われたりしています。残念ながら他人に無関心な人もいます。スーパリーの駐車場で障害者用のスペースに、元氣な健常者の人が駐車しているのを何度も見たことがあります。急に世の中は変わらなと思うけど、誰もが不自由なく生活できて、誰もが他人におもいやりを持てる世の中になればいいなと思いました。

私もできることから変えたいと思えます。周りの人の視線を気にせず、少しでも胸を張って言ってみたくです。

私のお父さんは車イスに乗っています。